

KTK
NO.96

後援会費郵便替口座
01070-7-32145
あらぐさ後援会

あらぐさ通信

編集 集 あらぐさ後援会
編集協力 社会福祉法人あらぐさ福祉会
〒617-0813 京都府長岡京市井ノ内広海道42-3
TEL 075-953-9212 FAX 075-953-9215

きょうされん署名

障害者権利条約を地域のすみずみに



毎年、12月3日～9日は障害者週間と定められ、各地で意識啓発の為の取り組みが行われています。きょうされんでは障害者週間を『がんばるウィーク』と位置づけ、京都では12月9日(金)を『がんばるDAY』として、街頭署名が行われました。

あらぐさの利用者さんも、亀岡から来たきょうされんのなかまと一緒に、JR長岡京駅前街頭署名に取り組みました。20名程が集まり、署名や募金の呼びかけ、ピラ配りをしました。毎年参加しているベテランの利用者さんは、どんどん声をかけ、署名を集めていました。みんなでたくさんの人に声かけをし、署名約40筆、募金約5800円を集めました。

街頭署名に参加しなかった利用者さんたちも、帰って来た途端「どうだった？」と気になる様子。「いっぱい集まった！」と得意げに話されていました。

スローガンにも書かれている『あたりまえに働き えられる暮らしを』送れるように、たくさんの方の署名を集め、国会に届けたいと思います。また署名を通して1人でも多くの人に、障害のある人の思いや願いを伝えていく機会になれば、と考えています。

ビートルズが好き ～



音楽とコミュニケーションの力に支えられて

拓嗣(たくじ)さんは21歳。あらぐさに来て2年、あらぐさでの生活にもすっかり慣れ、先輩や職員さんに話しかけたり、ラジオ体操では先輩の手を取りに行くことがあったり、一緒に過ごす時間を楽しんでいます。



おいたち～羽曳野市(大阪)の療育園へ

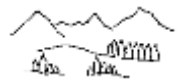
大阪府藤井寺市で誕生。「古き善きものを嗣(つぎ)つつ、自分の道を切り拓く」人間になってほしいと名前を付けました。同居のおじいさんやおばあさんに可愛がられて育ちました。3ヶ月健診で、首のすわりがおそいなど成長の遅れがみられ、数か月に1回の保健所の指導を受けるようになりました。

そして、1歳半の時、大阪の総合医療センターで重い知的障害と診断されました。ショックでしたが、それならば療育をと思い、車で15分の羽曳野の療育園に毎日通うことにしました。母子通園しながら、うた、手遊び、お散歩などの取り組みを楽しんでいました。身辺自立の指導、感情を豊かに育てるなどが大切にされていました。人や遊びに対する興味がありませんでした。拓嗣さんですが、音楽は大好きで、「しまじろう」の身振りを喜んで模倣していました。お母さんは音感がいいことに気づき、日常生活にメロディをつけて話しかけたり、歌を歌ったりしていました。音楽を媒体に、拓嗣さんとのコミュニケーションの糸口を探っていたのです。拓嗣さんにヒットしていたのは、乾布摩擦の歌！これを歌いながら体を摩擦すると笑顔がはじけました。幸せな瞬間でした。

3歳になる前に肺炎になり、熱性けいれんを起しました。その後けいれんが始まり、多い時には一日に20回もありました。治療のための薬のアレルギーで発疹・高熱が続きました。その治療のため、

大阪の母子センターで2か月間の入院治療を受けました。退院して約半年後、投薬治療がうまくいくようになり、3歳から今まで発作は出ていません。

入院中に2人目の子がお腹にいることがわかり、おじいさんとおばあさんにいろいろ助けてもらいました。妹の誕生を機に、療育園に一人で行ける日が増えました。保育所への入所も考えましたが、就学まで療育園で指導を受けることにしました。担当の先生が頑張ってください、おむつもとれ、フォークを使うなど、自立が進みました。6歳の時に自閉症の診断を受けました。



就学 そしてスイスへ

就学は地域の障級にいきました。時に行方不明になることもあって、送迎は家族がしました。笑顔が増えてほしい、コミュニケーションの力をつけたいという願いがあり、お母さんはいろいろな情報を集め、療育の機会を増やしました。週1回ティーチプログラムの教室にも通いました。ここで成長の兆しを感じる事ができました。

小学校2年生の夏休みから中3年まで、お父さんの仕事の都合でスイスで生活しました。初めは、ティーチの教育をしている学校に魅力を感じて通いました。6年間通った後、より拓嗣さんに合っていると思える学校に転校しました。そこは「シュタイナ

一教育」をしているハンディキャップスクールで、緑いっぱいの広々とした敷地内に学校や寄宿舎がありました。感覚統合により乗馬を始め、多くの貴重な経験ができました。自然が大好きな拓嗣さんは、屋外で過ごすことが多かったようです。スイスでは長期の休みが多かったのですが、外国人への支援がなかったので、みんなで遊べる団体を見つけては参加していました。

スイスから帰国して京都に来ました。妹のための帰国子女を受け入れてくれる学校を探すと京都にあり、お父さんの会社も近いことで決めました。拓嗣さんは、4月から向日が丘の高等部に入学しました。2年生の時には寄宿舎に入舎をしましたが、環境の変化が重なったからか、体調を崩して貧血になりました。それでも少しずつ回復し、後半の寄宿舎生活は元気に過ごせました。



あらぐさとビートルズ

あらぐさでは、紙すきや花の苗づくりなどを行っています。紙すきは、ミキサーの音を聞きながらの仕事が楽しいようです。好きな先輩との関わりも増えてきました。

音楽はやはり一番の楽しみです。あらぐさでの週1回の音楽タイムは大きな楽しみの一つです。CDで音楽を聴くのは拓嗣さんの生活にはもう当たり前のこと、大量のCDの中から、今聴きたいと思う曲を選んで聴いています。好きな曲の中にはビートルズもあります。お父さんが大のビートルズファンで、その影響があるかもしれません。最近はジャズにも興味を持つようになりました。楽器ではあらぐさで職員さんに弾いてもらうウクレレや、ピアノが好きです。家でもよく触っています。以前受けていた音楽レッスンでは、バイオリンの音より、人の声に近いといわれるピオラの音が好きでした。今も月に1回「音楽療法」を受けています。

ガイヘル制度を利用して万博などへのお出かけを楽しんでいます。日曜日はお父さんが家にいれば散歩に出ることもあります。お風呂に入ったり、散歩に行くのは、お父さんと一緒です。

ショートステイは月2回利用しています。行政に望む事は、緊急対応を充実してほしいという事、グループホームを増やしてほしいという事です。生活の変化に対応する柔軟性が残っている若い内に、グループホームに入居し、大人として当たり前の、親とは別の暮らしの場が持てることを切に願っています。



家族の願い

拓嗣さんが小さい時からコミュニケーションの力をつけたいと努力してきたのですが、好きなものを選んだり、要求を伝える力がついてきたと実感しています。最近は、身振りやカードを使って聞き入れられるまで要求します。それでも思いを伝えるのは難しく、家では機嫌が悪くなることも多いので、もっともっと伝える力を身に付けてほしいと願っています。

怒って自傷したり夜眠れなかったりすることもよくあります。「それ色々な思いがあるよね。笑ってばかりもいられないよね。」と思いつつも、拓嗣さんが穏やかに笑顔で毎日を過ごしてくれることを願い、そのために何ができるのか模索を続けています。お母さんにとって、拓嗣さんの笑顔は、毎日の頑張りに対する何よりのご褒美！笑顔が見たくて今日も頑張っています。

お母さんは実家のお母さんのお見舞いや家事など忙しい毎日です。まだまだ余裕がない日々で、自分の時間は中々持てませんが、やりたいことはたくさんあります。わくわくしながら少しずつ楽しんでいこうと思っています。

(取材：前田幸子 真殿尊子 坂下佳子)

とっておきの一枚

還暦お祝い



いそろりて一番年上の入居者さんが情れて還暦を迎えられ、いそろりメンバーさんや、あらくさ職員、いそろり職員の皆さんをお招きして還暦お祝い会をしました。

お祝いに赤色のニットのベストをプレゼントされ、にぎやかな雰囲気にはじめは「あれっ？」という表情をされていましたが、段々と笑顔になられていました。

あらくさ職員さんから今までの暮らしのことやお祝いの言葉を頂き、改めて地域で暮らして

いくことについて色々と感じさせられました。元気にあらくさに通い、いそろりて暮らし続けること、いそろりにとってこれからもまだまだ課題は山積みですが、みなさんの暮らしを支えていける場所になっていけるようにと思います。（ケアホームいそろり 中田あづさ）

作品展「創XIV～えがおの手しごと展～」の取り組み

テーマは、「ウキウキ春雑貨」です。
春らしい作品作りに取り組んでいます。

3月4日(土) (12:00~17:00)

5日(日) (9:00~17:00)

6日(月) (9:00~15:00)

長岡京市立産業文化会館

多肉植物

サボテンの様な、花のような、不思議な植物「多肉植物」の栽培に取り組んでいます。

ポロッと落ちた葉から、また新しい芽が出てきます。プリプリした葉の感触や、葉がポロッと落ちる感触を手を動かして楽しんだり、手作りの鉢に寄せ植えをして、“できた！”と達成感を味わいながら取り組んでいます。 (デイセンター1 Aグループ)



藍染め

深い藍色が魅力の藍染め。発色剤作りから布のノリ落とし、染めなどの工程に取り組んでいます。ペットボトルに発色剤の粉とお湯を入れてフリフリ振ったり、転がしたり。中にはペットボトルを電話に見立てて楽しんでいる人もいます。最後の染めの工程では袋に作った藍液と、布を入れて、歌いながらトントン叩いて楽しんでいます。みんながきれいに染めた布でシュシュなどを作る予定です。

(デイセンター1 Bグループ)



フェルト

どんな物を作ろうか…。フェルト会議を開き、見本の写真を見ながらみんなで考えました。それぞれ花柄などの柄が入ったポーチや、フェルトで作ったサボテンなど、様々な物を選び、フェルト作りをしています。「今日、昨日の続きする!」「(会議で決めた)サボテン作りたい。」とみんなもやる気満々です。作品展「創」で展示されるのを楽しみにしながら、はりきって取り組んでいます。 (デイセンター2)



製品紹介

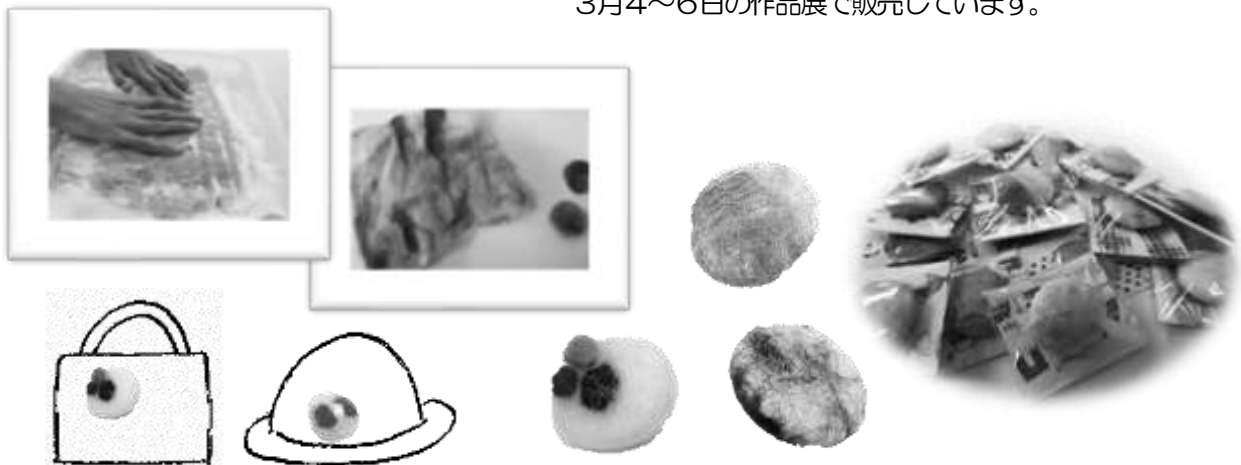
Bグループ フェルトボタン

今回紹介するのは、冬カタログでも掲載した、今Bグループでイチオシのフェルトボタンです。帽子やカバンにつけたりヘアゴムにしたりアイデア次第で使い道はたくさんあります。

フェルトの活動でゴシゴシと擦って縮絨することでボタンにうってつな絶妙な厚みのフェルトの生地に仕上がります。カタログでは赤系・青系・黄色系の3種類だけでしたが、現在、様々な色模様の生地を制作中です。

その模様どれもが世界に1つしかない、とっても可愛いフェルトボタン、是非一度お手にとってみて下さい。

3月4～6日の作品展で販売しています。



きょうされん 京都大会に向けて

『きょうされん』の全国大会が来年2018年に京都で開催されます。きょうされんの活動、とりくみを連載紹介します。



きょうされん全国大会 in 熊本で感じたこと

昨年10月22日23日の2日間、『きょうされん全国大会 in 熊本』に参加させていただきました。2日目の分科会では「くらしと居住」に参加し、支援者やご家族などからの話を聞かせてもらいました。その中でもグループホームに入居している当事者の話のなかで、震災の時のことが語られました。グループホームが被害を受け、自宅のある自分は帰るところがあったが、帰るところがない人もいたこと。そういったときに、周辺の施設と連携が取れていれば…と感じたことなどが語られました。現場や利用者自身が抱える生活の中での困難さや不安定さを突きつけられたように思います。

あらゆる利用者だけでなく、障害のある人たちが全てが、安心して安全に生活を送っていけるよう自分には何ができるのか、考え共に行動していくことの大切さを感じました。（宮本）

障害福祉センターあらぐさ 職員

太田 政喜 さん



はじめまして、Bグループ所属の太田政喜です。

私の子どもの頃の、夢は保育士でした。小学生の頃から大学に上がるまでぶれることなく保育士を目指して、他の事には関心がなく、障害者福祉の世界について全く知りませんでした。

大学生になってからも保育所でバイトを始めたりと、保育士一本でした。

そんな私にきっかけが訪れたのは4回生の秋でした。なんとなく履修していた社会福祉土の実習で、当初予定していた実習先が行けなくなり、知的障害の子どもの養護施設で実習することになったのです。1ヶ月の実習の中、言葉でのやり取りができず気持ちがくみとれなかったりと、心が折れそうでした。そんな実習最終日のお別れの時に一人の子に「あなたはボタンを直してくれました。ありがとう。あなたはえらい。」と言われました。ボタンが取れていた

のを学校に行ってる間にこっそり直したことを気付いてくれていたのです。その時に、気持ちが伝わらないことばかりだったのに、この子たちはちゃんと自分の事を見てくれていたんだという事に気づいて、「この仕事に就きたい。」という気持ちが溢れてきました。そんな時に出会ったのがあらぐさでした。保育士として働きたい気持ちもあったのですが、障害の分野で仕事がしたい気持ちの方が強かったので、「3年だったら一区切りつけて、保育士として働こう」と決めてあらぐさに就職することにしました。

今年で3年目ですが働いているとやりがいや魅力が次々できて、楽しくてもっと続けたいという気持ちでいっぱいです。まだまだ頼りないですが、これからどうぞよろしくお願いいたします。

きょうされん第40次国会請願署名にご協力をお願いします

きょうされんとは、1977年に障害のある人々の願いをもとに、16ヶ所の共同作業所によって結成されました。現在は1850ヶ所を超える事業所が会員となっており、障害のある人々の暮らしを豊かにするための制度の拡充を求め、活動を続けています。

40回目をむかえる「きょうされん国会請願署名・募金」は、障害のある人たちの切実な願い・声を国や国会に届ける大切な取り組みとなっており、これまで多くの障害者施策の改善につながってきました。今回は、障害者権利条約を批准した国にふさわしく、国の責任による障害者福祉制度の充実を求める内容です。一層のご理解、ご協力をお願いします。

募金は、本取り組みの資金、国会請願行動への参加費用、またきょうされんの活動資金として、有効に活用させていただきます。



あらぐさ後援会 加入・募金 ありがとうございます

8月1日～12月31日 敬称略・順不同

浅田光代 芦田幸子 天野さみ 粟田士郎 粟田
紀江 安藤歯科医院安藤純夫 石井憲生 石野拓
石野洋子 石原洋子 石村和子 一箭浩志 伊藤
勝久 伊藤卓次 伊藤弘紀 井上 井上敏子
今井和子 今井正 今井正 今西さよ子 岩崎
泰子 岩崎英雄 (株)魚国総本社京都支社 江川
哲 大江貴光 大江延佳 大城まゆみ 大林雅子
岡田多賀子 小川直 奥田保 小国祥子 乙訓教
職員組合 小野田照代 小原明大 香月敬 鎌田
桂子 菊井誠 岸陽子 木村栄美子 木村忠
木村嘉男 京豆腐にがりや 京都税理士法人
窪島敏子 小林正美 小林保太 西古永吉
佐々木久子 佐名木良実 四方政則 重松悦子
篠原秀子 柴田和泉 柴田千砂子 下尾医院下尾
和敏 庄田馨 新免富美子 鈴木堂司 鈴木
千賀子 関節子 高橋恭三 高橋すなお 高橋
謙二 高橋光子 竹下久美 竹田信子 武山彩子
建山昌子 田中洋行 谷口奈緒子 谷下久子
玉木洋子 たまるまちこ 丹野かほる 長誠一郎
長理恵子 塚上公治 銅銀正美 東宮健史

富田達也 長岡天満宮 中川美智子 長澤洋子
中路克介 中田あづさ 中野智恵 中村時雄
中村智江 中村雄策 仁木宏 西村栄治 西村
秀晴 西山俊太郎 野々下國男 (株)ハウジング
ステーション代表取締役山下吉昭 橋本さつき
八田萬喜雄 林節雄 林広子 ばんだ企画 ビュ
ーティサロンナティ 平塚洋子 廣岡富美子
福井共子 藤松素子 藤本秀延 藤原啓子 細井
創 細井雅代 細井のぞみ 細川幸子 本田章子
本田よし子 前川明雄 前田知臣 松井幸子
松田恵美子 松村誠 丸岡敏夫 丸岡正子 丸岡
勇毅 水嶋雍子 水谷和夫 水谷美穂 峰島厚
三宅州人 都インターナショナルフーズ立蔵千秋
村上久代 村田清子 森上郷 森川浩世 森下
洋子 森本達也 守屋伸江 八木弘行 安井芳幸
山口隆史 山口武彦 山崎諭 山下潔 山下
敏夫 山副スヘノ 山田陽子 山本朝栄 山本
義則 山本恭子 (株)ユニバーサルホームサービ
ス 横澤辰美 吉井孝一 吉田治子 米村久美
渡邊一翔 匿名18名

2016年度のあらぐさ後援会のご加入・更新をお願いします。郵便振替用紙を同封していますのでご活用ください。ご入金と行き違いになりました場合は、なにとぞご容赦ください。あらぐさ支援募金にもご協力をお願いいたします。

よりよい支援をすすめるために
支援スタッフを広く募集しています！

—あらぐさ福祉会—

◇詳しくは、付録をご覧ください◇

1992年6月5日 第3種郵便物承認 (毎月1回25日発行) 2017年2月15日発行
KTK増刊通巻第4548号 発行所 京都障害者団体定期刊行物協会
〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル中之町519 京都社会福祉会館4階
京都障がい病室内 発行人 高谷修 頒価50円 (購読料は会費に含まれています)

KTK
あらぐさ通信